

# 吃音「子どもに寄り添って」

## 安曇野の小学校で職員向け研修会



安曇野市三郷小学校は23日、言葉がつかえたり出にくかったりする吃音<sup>きつおん</sup>について理解を深める職員向けの研修会を開いた。言語聴覚士の内藤麻子さん(53)＝松本市＝が講師を務め、吃音があっても受け止められる環境を学校でつくるのが大切だ―とした。

吃音のある子どもとの向き合い方について話す内藤さん

内藤さんは、クラスメートから吃音をまねされるなどしてからかわれることで、当事者が話すことを怖がり、言いにくい言葉を回避するようにになると説明。回避が当たり前になると吃音の症状が重くなるとした。周囲が吃音について理解し、子どもが言葉に詰まった時、出てくるまで待つなど「寄り添う姿勢が大切」と呼びかけた。

研修には約50人が参加。松井美香教頭は「学校内で理解を広げていきたい」と話していた。